湊川隧道保存友の会会報 てんちょうちきゅう 第８号
発行日　平成 21 年３月 21 日
発行者　湊川隧道保存の会会長　吾妻　義信

国土交通省大臣表彰「手づくり郷土賞」受賞おめでとうございます

神戸市兵庫区長　　新　屋　　学

湊川隧道保存友の会の皆様、平成20年度「手づくり郷土賞」の受賞、おめでとうございます。地域の資源を活かした魅力あるまちづくりの取り組みを讃え、地域活動の範として全国に紹介する、この国土交通大臣表彰を兵庫区内で活動される皆様が受賞されましたことを、まことに喜ばしく、また誇らしく思っております。

湊川隧道は、明治時代に湊川の付け替えという課題に直面した先人が、知恵と技術を結集させて造り上げた貴重な土木遺産です。それを、友の会の皆様は、たんに過去の遺物の管理ということでなく、歴史を学ぶ場、また様々の催しを通して人が出会う場として活用されています。そうすることで、隧道が、真に地域の財産として、生きているのだと思います。友の会の皆様の「地域の資源は地域で守る」という高い志と献身に対して、心から敬意を表します。

兵庫区は古代より近現代に至るまで、歴史の表舞台に何度も登場した由緒あるまちです。そのため、数多くの伝承や史跡があります。こうした遺産の歴史的意味をよく理解し、今の暮らしに生かし、また次世代に引き継いでいくことが、今を生きる我々の使命であると思います。

幸い、兵庫区には、そのような歴史的遺産を大切にし、魅力を伝える活動に取り組んでいる方がたくさんおられます。今回の受賞を機にそうした地域活動が益々広がり、深みを増していくことを願っています。

区役所としても、区民の皆さんと一緒になって活力、魅力を引き出し、だれもが地域を愛し、誇りに思い、いつまでも住み続けたいと思うまちづくりを進めていきたいと思います。

最後に、今後益々、湊川隧道保存友の会が発展されますことを祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

湊川隧道ミニコンサート、この１年（その１）

オカリナ演奏会

日　　時：平成 20 年7月 19 日（土）
グループ名：オカリナ・アミカ

夏の太陽が照りつける7月19日の午後、隧道入り口から緩やかな下り坂を下りていくと、夏から秋へ、そして初冬かと思うほどのひんやりとした空気に変り、まさしくタイムトンネル！

その中でのオカリナ演奏は今まで経験したことがない素晴らしいものでした。吹いている音と吹き終わった音が渾然一体となって私たちを包み、まるで母の胎内にいるのではないかというような感覚を味わいました。落ちてくる雫の音さえも共鳴して完全に一つの演奏となりました。こんな体験をもっと多くの方々に共有していただけたら……と願っています。

マジックショー

日　　時：平成 20 年8月 16 日（土）
グループ名：松平憲長（マジッククラブカナリア会）

アマチュアながらマジックを始め四十年、数々のテレビ出演をはじめ世界一周の豪華客船上、有名ホテルでのディナーショウ等々色々な場所での出演を体験してきましたが、この度の地下深くでの空間でははじめてのものでした。

昨年は秋芳洞、生野鉱山、岡山の笹畝（ささうね）坑道、そして世界遺産の石見銀山等見学し地下の神秘を肌に感じてきましたが、神戸に居ながらも始めて見る湊川隧道も感無量のものでした。この迫力ある地下でのマジックショー、忘れられない体験になると思います。

毎月一回公開される予定の湊川隧道、このすばらしい土木遺産の見学を大勢の皆様にもぜひお勧めしたく思っています。

クラリネットコンサート

日　　時：平成 20 年9月 20 日（土）
グループ名：上堂尚子・中平沙希・真末聡子

「湊川隧道でコンサートをしてみないか？」とお誘いを頂いてから、私たちは隧道とはどんなところだろうとワクワクしながら当日を迎えました。隧道入口に到着し、立派な扉から中へ入ると、ひんやりとした空気と光と影の不思議な世界が広がり、私たちはその空間を楽しみながら、奥へと進んでいきました。すると、トンネルの途中に小さなステージが設置されていました。その上で、リハーサルを始めたのですが、私たちはその音の響きに驚きを隠せませんでした。普段ホール等で演奏活動をしている私たちにとって、この響き方は初めての体験でした。普段は前方から音の響きが返ってくるのに対して、ここでは、自分たちの後方からも音が返ってくるのですから…。本番では、たくさんのお客様に迎えられ、素晴らしい響きの中で、私たちも気持ちよく演奏させて頂きました。これまでにない貴重な経験と素晴らしい空間で演奏させて頂き、湊川隧道の関係者の皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

湊川隧道ミニコンサート、この１年（その２）

弦楽四重奏

日　　時：平成 20 年 10 月 19 日（日）
グループ名：アマローネ・カルテット

私たちメンバーの一人（チェロ）にとって、湊川トンネルの入り口は、生まれ育った小学校（当時の鵯越小）の校区にあり、40数年ぶりに、このような機会が訪れるとは、夢にも思いませんでした。なつかしい思いで、本番の始まる前に、幼い頃、母の手に連れられて行った“丸神市場”を回り、トンネルに向かうとブラスバンドが演奏していました。それは、かつて私も一員だった夢野中学のブラバン部だったのです。一挙に中学時代にタイムスリップしてしまいました。本番では、ほの暗い空間のなかで、私たちの弾く音が後方に抜けていくのは、まるで私たちを載せた舞台が宇宙を浮遊していくようでした。自分の意識だけが時間と空間を超えていくような不思議な感覚にとらわれた一日でした。人々の暮らしが息づく街並みと、人の手で創り出した神秘の空間が、いつまでも共に在りますように！　（谷口　浩）

オカリナ演奏

日　　時：平成 20 年 11 月 15 日（土）
グループ名：スポットライト

湊川隧道の存在は兵庫ボランティアセンターからの演奏依頼で初めて知りました。

天井は高く、幅も広く、たくさんのレンガを積み重ねてできていて、明治時代に造られた立派な建造物に圧倒されました。

足元は、木を敷き詰めた木道で、木のやさしさが伝わってきて、心地よく感じられましたし、音響効果も抜群！観客の方々の反応は良く大きな声で歌ってくださり、気持ちよく演奏ができました。

オカリナ演奏グループ「スポットライト」を結成し４年が経ち、いろんな場所でいろんな方々との交流をしてきましたが、湊川隧道での演奏は、大きな感動と深い思い出になりました。

一弦琴・竹笛演奏

日　　時：平成 20 年 12 月 20 日（土）
グループ名：弦楽　直海会（にはたづみのかい）

『響きがいいね♪　トンネル演奏会』

（H20・12・21朝日新聞掲載の見出しより）

「古典の日」は、平成20年11月１日（土）に源氏物語千年記念式典で宣言されました。

奇しくも、その晩冬に、会下山の隧道内で「古の人を偲ぶ管弦の曲」を奏でさせて戴きました。

先人の偉業を後世に伝える湊川隧道は厳かでした。河川の使命を全うし終えて、その中は訪れる人々の心を感動させる波動が自然にゆるやかに渦巻いているのでしょう。

透きとおる風や花、水音に誘われて、しめやかに「管弦の音色」も冴え渡り、貴重な体験をさせて戴き、ありがとうございました。

神戸県民局からのお知らせ

●●●●●●●●●●●●急な増水に備えて●●●●●●●●●●●●

昨年の７月28日に都賀川において突発的で局地的な集中豪雨により、市民や学童５名の命が失われるという水難事故が発生しました。強い雨が降り始めてから２分以内に１メートルも水位が上昇するという、誰もが経験した事がないような急激なものだったと思われます。

都賀川では平成８年から17年にかけて行った河川改修で現在の様な治水機能を高めた、また環境へ配慮した親水施設を地元と共に進めてきました。階段、スロープ、遊歩道等の親水施設。環境ブロック等を用い、魚等が棲みやすいような水路整備等。また注意喚起看板の設置、出前講座などを通して安全やマナーについて啓発活動を行っていました。

今回の事故を受けて兵庫県としては河川利用者の安全確保、危機意識の共有をはかるため以下の取り組みを行っています。

①　急激な増水に対応するための情報提供システムの設置

ラジオ関西の電波を利用して大雨洪水注意報、または警報で黄色の回転灯が起動するシステムを今年の雨期までに整備する。（新湊川では既設のシステムの下部に回転灯を設置）

②　注意喚起看板の整備

現在も多数の注意喚起の看板を設置していますが、内容をより充実し、また橋の下の遊歩道には雨宿り防止の看板を追加で設置します。

③　河川に潜む危険性のさらなる周知と啓発

地域と連携した学習会、出前講座等をこれからも実施し、より充実させていきます。

都市河川での安全についてさらに対策を進めて行きたいと思いますので、今後もご意見ご協力お願いいたします。

兵庫県神戸土木事務所・兵庫県●警察署・神戸市・河川愛護団体名

地域の紹介　④

兵庫区内の三大土木遺産を取り巻くまちづくりの活動

神戸市兵庫区まちづくり課　課長　　手　塚　亮　介

湊川隧道保存友の会では、隧道内において１年に10回ものイベントを開催されています。そのイベントも各種コンサート、マジックショーなど多彩な内容を盛り込んだものとなっています。

私も昨年８月のマジックショーに小学４年生の子供とその友達の３人で参加させていただきました。１日に２回の公演だったのですが、隧道内は年間を通して18度という真夏の市街地では考えられないような涼しさもあり、２回の公演の始めから終わりまで３時間以上も隧道内に留まってしまいました。子供たちも、マジックショーのマジシャンのお手伝いに参加させていただき、新聞記者からのインタビューも受けるなど、貴重な体験ができました。（残念ながら記事にはなりませんでしたが…）その日のことは夏休みの日記の１ページに貴重な体験として記載されたのは言うまでもありません。ありがとうございました。

兵庫区内には烏原貯水池、兵庫運河、湊川隧道といった近代の神戸を支えた三大土木遺産があります。湊川隧道以外の他の施設を取り巻く動きを少し紹介します。

まず、烏原貯水池ですが、平成11年、12年に起こった新湊川の氾濫をきっかけに、烏原貯水池の治水活用を始め、毎年６月から10月末までの間、貯水池内の水位を下げて洪水時に備えることにしていました。昨年６月に上流の石井ダムの建設、堪水試験が完了したので烏原貯水池の治水利用も終了しました。現在、貯水池内の樹木伐採、清掃、点検を行っているところです。もうすぐ、以前のような素晴らしい貯水池の景観が見られるものと思います。

次に、兵庫運河周辺での動きを紹介します。兵庫運河は、平成19年に運河の魅力を再発見しようという国の施策（運河の魅力再発見プロジェクト）に認定され、現在、地域、企業、行政の３者で運河のハード整備やソフト施策をどう進めたらよいか話し合いが行われています。その中で新川運河のプロムナード整備などが来年度から実施されることになっています。また、周辺では都市計画道路高松線によって分断されている神戸市中央卸売市場本場の施設を東側に集約することで、その西側が跡地となります。現在、地域の代表者、学識経験者、行政のメンバーがその跡地をどのようなコンセプトで整備を行ったらよいか検討を行っています。

このように、来年度は兵庫区内の三大土木遺産を取り巻くまちづくりの動きが活性化していくことが予想されます。区役所としても湊川隧道保存友の会の皆様をはじめとした地域の特色を活かした魅力づくり活動への支援を行うとともに、その活動を区内外に積極的に紹介するなど広報関係でもご協力してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

「湊川隧道保存友の会」が、『手づくり郷土賞』を受賞

このたび、「湊川隧道保存友の会」は、平成20年度『手づくり郷土賞』（国土交通大臣表彰）を受賞しました。

この賞は、地域固有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な資源として再認識し、積極的に利活用した魅力ある地域づくりの取り組みを行っている地域活動を発掘・評価し、『手づくり郷土賞』として表彰するものです。昭和61年度に創設され今年度で23回目を迎えています。これまで兵庫県内では、11市４町で34件が受賞しています。

３月４日、近畿地方整備局において受賞式があり、吾妻会長が出席し、認定証が授与されました。

湊川流域歴史物語　⑧

鈴蘭台駅創業と湊川隧道

園田学園女子大学教授　　田辺　眞人

明治中期から北摂での鉄道起業熱が起こる一方、三田や有馬と神戸や宝塚とを結ぶ乗合自動車・バスの運行も大正初期からいくども企画されたが、大きな成果をうむことはなかった。有馬郡道場出身の農政運動家・山脇延吉らは有馬から平野までの小部峠越え鉄道敷設を計画、大正15年3月に神戸有馬電気鉄道が設立され、結果的には湊川から源平合戦以来の鵯越え道とダブるような路線で、工事が進められた。湊川駅から鈴蘭台駅までの7.5kmは、鵯越えの山地の下をトンネルでくぐり烏原谷の支流（イヤガ谷）を築堤で渡る工事が行われた。高低差268mのこの路線では、勾配規格1000分の３を超える区間も多い難工事だった。こうした工事に従事して犠牲になった朝鮮人労働者を追悼するモニュメントが、会下山公園の一角に建てられている。

昭和3年11月に湊川・有馬温泉間の営業が開始された。当初、鈴蘭台駅は武庫郡山田村小部の地名から「小部（おうぶ）駅」と名づけられた。山田川流域に発達した谷上から衝原の地域に対して、南の尾根部の地域を「お（尾）ぶ」と呼び小部の字が当てられたのであろう。小部はいつのころからか「おうぶ」と読まれてきた。最近では「おぶ」と読む人も多いが、書類上では「おうぶ」である。

当時の新聞広告では、「神戸の中心地から僅か十分の理想的住宅地、三年立てば地価三倍、電車賃たった九銭」とある。以後、「関西の軽井沢」と称して宅地分譲が始まった。戦後、特に高度経済成長期に乱開発気味な宅地化・市街化が進められ、鈴蘭台駅周辺は下町的な雰囲気になったが、のどかな田園地帯の面影は万福寺や大歳神社や点在する雑木林や田畑にうかがうことができる。

この辺りの住宅地は、新湊川・明石川・加古川の上流域に開発され、特に新湊川の上流域は3分の１が市街化され、これが豪雨時の流出量に大きな影響を与えている。

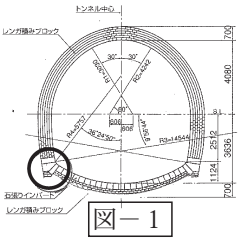
ところで、『神戸電鉄50年史』には路線建設の「工事中に湊川隧道にも問題が生じるなど」という記述がある。当時は湊川隧道完成から30年足らずだったが、この記述は隧道の上流側坑門付近を埋めて軌道の路床を敷設しなければならぬことを述べており、湊川隧道という正式名称をこの社史が記している点、興味深い。そのころから一般には、「会下トンネル」と呼ばれ、昭和12年刊行の『神戸市史　第二輯』でも「会下山隧道」と記されているからである。

湊川隧道について　⑧

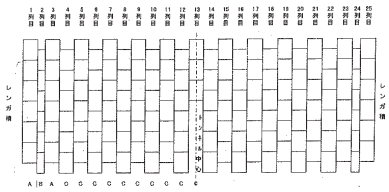
湊川隧道に使用されている石材（その２）

佐々木　良作（㈱建設技術研究所）

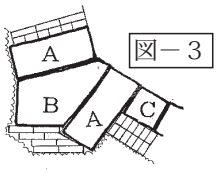
「天長地久」第2号（平成15年発行）で、湊川隧道に使用されている石材と題して記したが、隧道のインバート部に使用されている石材について追記させていただく。インバート部に敷き詰められた石材は、常時は水の流れ、洪水時は土砂の流れにさらされて磨耗に耐えるという目的を持ち、このうち両端部の石材は、内空断面のアーチ作用を受持ちながら覆工煉瓦積みの基礎石の役目を担っている。図―１は隧道の標準断面図。図―２はインバート部石張りの平面的な配置を示す。図―３は両サイドの石張りの詳細図であり、Ａ、Ｂ、Ｃの3タイプがあることがわかる。図―４にそれぞれの平均的な大きさを示す。重量は、Ａタイプ＝約270kg、Ｂタイプ＝約340kg、Ｃタイプ＝約100kgである。こうした図から、前述した石張りの状況がよく理解していただけると思う。特に、Ｂタイプの石材は、表面からその形状を類推することが難しく、隠れた‘縁の下の力持ち’になっている。石張りは、掘削が終わった後、坑口から順次敷き詰められていったであろうが、特に最上段のＡタイプの石材は、煉瓦積みの直接的な基礎石でもあり、据付けの精度も要求される匠の技である。現在のような機材がない時代に、狭い空間での石工の作業は、危険と背中合わせの過酷なものであったにちがいない。なお、こうしたことを知り得たのは、新湊川トンネル築造に伴い、湊川隧道吐口部の一部を拡幅掘削する際に観察できたことによる。



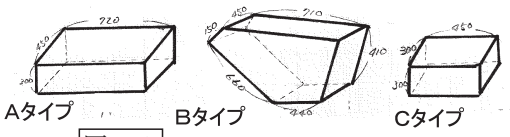
図－１



図－２



図－３



図－４

平成20年度の活動報告

総　会

日　　時：平成20年３月23日（日）10：00～12：00
場　　所：新湊川河川防災ステーション内（新湊川ふれあい会館）
参加人数：60名

・総　会
　平成19年度活動報告、会計報告、会計監査報告、
　平成20年度予算案、新役員紹介

・講演会
　講演者：吾妻義信氏（湊川隧道保存友の会会長、東山地区防災福祉コミュニティ委員長）
　演　題：『【湊川隧道保存友の会】地域の宝物』

（一般公開の見学者減少、地元も知らない隧道の使われ方、会員の若返り、といった現在の友の会が抱える課題などを話題にしながら、東山小学校の新校舎に負けないくらいに今から隧道周辺の美しい環境づくりを目指すことや、今後、湊川隧道保存友の会として取り組む意気込みを吾妻会長の地域活動に対する豊富な経験談を交えながらわかりやすく話していただきました。）

第３回新湊川まつりに協賛

新湊川の２年に１回の大イベントである“第３回新湊川まつり”が、平成20年10月19日（日）に「新湊川を守り育てる会」主催により、湊川隧道から熊野橋の間の緑道で盛大に開かれました。

夢野中学校生徒によるブラスバンド演奏、神戸新鮮市場買物券プレゼント付のスタンプラリー及びお好み焼き・焼きそばなどの模擬店で賑わいました。

湊川隧道保存友の会は、このまつりに協賛して湊川隧道内で一般公開とあわせて神戸市民交響楽団有志による弦楽四重奏のミニコンサートを開催しました。

湊川隧道　平成20年度の一般公開とイベント

一般公開日	ミニコンサート等	入場者数	参加スタッフ人数	備考
４月19日（土）		38名	14名	
５月17日（土）		15名	15名	
６月21日（土）		38名	11名	
７月19日（土）	オカリナ演奏	91名	13名	
８月16日（土）	マジックショー	64名	10名	
９月20日（土）	クラリネット演奏	116名	15名	
10月18日（土）		70名	11名	
10月19日（日）	弦楽四重奏	595名	14名	新湊川まつり
11月15日（土）	オカリナ演奏	151名	11名	
12月20日（土）	楽器演奏（たて笛、文化琴他）	96名	18名	
３月21日（土）	歌（童謡コーラス）			
合計		1,309名		H19；746名

平成21年度の行事予定

一 般公開＆ミニコンサート

場　　所 湊川隧道内

内　　容 「隧道内見学」、「VIDEO上映」、「パネル展示」、「レンガ販売」等

主　　催 湊川隧道保存友の会

日　　時 平成21年４月18日（土）　平成21年５月16日（土）　平成21年６月20日（土）
平成21年７月18日（土）　平成21年８月15日（土）　平成21年９月19日（土）
平成21年10月17日（土）　平成21年11月21日（土）　平成21年12月19日（土）
平成22年３月20日（土）

※一般公開時間は、いずれも13：00～16：00です。

※一般公開に合わせて、ミニコンサート等のイベントを13：30～、14：30～の２回公演する予定です。

※ イベント内容は、

４月；吟詠（剣舞）、５月；詩吟、６月；フォークギター、７月；（未定）
８月；（未定）　、９月；オカリナ、10月；津軽三味線、11月；管楽五重奏
12月；チェロ・クラリネット、22年３月；フルート

を予定しております。　詳細が決まりましたら別途お知らせいたします。

お　知　ら　せ

会費の納入及び新規会員募集について

・平成21年度会費の納入は、原則として４月末日までにお願いします。

・本会は、神戸を代表する近代土木遺産としての湊川隧道の保存を願う県民・市民で組織し、隧道の保存・公開等に関するボランティア活動や研修とその支援を行うことを目的として活動しています。知り合いの方々に本会の主旨を説明していただき、会員を増やしていきましょう。

正　会　員　（年会費　１，５００円）
賛 助 会 員　（年会費　１，０００円）
賛助法人会員　（年会費は一口１０，０００円を一口以上）
＊正会員は年一回以上、隧道公開時にボランティア活動を行う。

事務局
神戸大学都市安全研究センター内　　市　成　準　一
〒657－8501　神戸市灘区六甲台町１－１
TEL　０７８（８０３）６０６４　　FAX　０７８（８０３）６３９４

平成20年度の役員紹介

顧　　問：西田　一彦、田辺　眞人、久武　勝保、大野　忠昭
相 談 役：神吉　和夫
会　　長：吾妻　義信　　副会長：佐々木　良作
事務局長：市成　準一
会計監査：川崎　芳雄、渡辺　　保
会　　計：上野　展子、永喜　美代子
理　　事：池田　純作、佐藤　圭吾、西海　伸行、長谷川　健
幹　　事：大井　政勝、寒川　美樹、北川　佳代子、新谷　和、原　英雄
平口　正治、松井　栄三郎、三好　信吾、山田　英之